

静岡県議会議員

田口 章

後援会
だより

お気軽にどうぞ
昼 053-447-3820
夜 053-440-7100

平成 24 年 4 月 1 日

創ろう！元気な浜松&静岡県

田口 章 が考える

「明日の静岡県」の進捗状況

平成 23 年度の活動を振り返って

“目標管理”は仕事を進める上で大切なことです。私自身、市議の時から、みなさまとの“お約束”の進捗状況を毎年振り返り、ご報告してきました。

なかなか“定量的”に示せないので申し訳ないのですが、県議となって 1 年間の活動をピックアップしてご報告します。

私の“お約束(田口 章 が考える「明日の静岡県」)”は次のページをご覧ください。

将来を見すえた静岡県改革の進捗状況

★行財政改革

- ・「**県と市町の役割の見直し**」では、12 月の一般質問で、地域主権改革一括法の趣旨を生かした「**市町の行財政改革支援**」を提言しました。

また浜松市と静岡市が設置した「特別自治市研究会」への県としての受け皿作りや積極的な関与を、日常活動の中で提言しています(「まだ弱い」と感じています)。

今後の行財政改革は、県や市町が独自に行うことも大切ですが、行政全体の中で“全体最適”を作っていくことが効果的と考えます。

- ・「**二重行政の解消**」に向けた事業の見直しは、まだ具体的に取り組めていません。

所属した「産業委員会」分野では、県が役割を果たすべき事業が多くみられ、具体的な提言はできませんでした。雇用対策や就労支援は、国(ハローワーク)・県・市の交通整理が必要とも感じましたが、現下の厳しい雇用情勢の中では、二重行政の効率化よりも利用者にとっての「ワンストップ・サービス」が必要と考え、提言しました。

今年度は前述の「特別自治市研究会」の提言が秋に出される予定ですので、それを踏まえて二重行政の解消に取り組みたいと考えています。





た くち あきら

田口章が考える

明日の静岡県



将来を見すえた静岡県改革

(浜松改革の目線で20年30年先の県政基盤をつくる)

「中央集権」から「地域主権」の流れが進んでいます。自治体が独白色を発揮できるチャンスが広がると同時に、国県市の三層になっている自治体の役割分担の議論も進んでいきます。私は、浜松改革に取り組んだ経験を活かし、将来にわたって安心して暮らせる静岡県をめざして、次のことに取り組みます。

★行財政改革

・県と市町の役割の見直し

県と市町の二重行政をなくし行政の効率化を図ります。あわせて基礎自治体(市町)、特に政令市へのさらなる権限委譲に取り組みます。

・次世代にツケを回さない

浜松市の目標「連綿ベース(一般会計+企業会計+特別会計+第三セクターなど)」でみると、県の「将来世代負担比率」は、20年度末で49.9%と、浜松市の13.3%(21年度末)に比べずいぶん高くなっています。「公会計改革」を推進し、財政健全化を進めます。

・事業の徹底的な見直し

総合計画と業務棚卸をチェックし、施策の優先順位を明確にします。漫然と実施されている事業の廃止や事業主体の見直しを行い、ムダをなくします。

・ファシリティマネジメント(資産経営)

高度成長期に造った施設が老朽更新時期を迎えます。負担を先送りするのではなく、最小の経費で維持修繕を行うとともに施設の統廃合を進めます。

★議会改革

関連な政策議論をおこない、議会の責務である意思決定機能とチェック機能を高めます。

笑顔あふれる元気な静岡県

(改革の目的は静岡県民の幸せな暮らし)

これまで私は「元気な浜松」をめざして取り組んできました。その姿勢は今もまったく変わりません。誰もが生き生きと暮らし、産業振興が進み、活気にあふれた郷土づくりを引き続き進めていきます。笑顔あふれる「元気な静岡県」、そしてその中でも「一番元気な浜松」をいっしょに創っていきましょう。

★生き生きと暮らしやすいまちづくり

・ユニバーサル社会

ユニバーサルデザイン(UD)のまちづくりに積極的に取り組み、障がいの有無や年齢、国籍などにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。また学校教育や家庭教育を通して「心のUD」にも取り組みます。

★子どもは社会の宝物

・教育

ひとりひとりを大切に、地域主権時代にふさわしい独自性ある教育施策を進めます。

・子育て支援

保育所と学童保育の待機児童解消を実現します。国が検討している「こども園」の状況を見ながら、住民目線で制度の再構築に取り組みます。

★産業政策

・ものづくり産業の基盤強化

ものづくり産業を維持発展させるため、人材育成や技術開発、販路拡大、金融支援など、県市の連携を深めます。

・雇用労働政策

県の雇用環境は東中西部で異なることから、地域のニーズに応じた施策を進めます。遠州地域では、産学官連携の中、就労能力の育成や雇用の場の創出を進めます。

・観光産業の育成

地域特性を活かした滞在型ツーリズムの開発を進めます。また県民相互の交流促進にも取り組み、広大な浜松市の地域資源を広くアピールします。

- ・「次世代にツケを回さない」では、12月の一般質問で再々質問まで行い、「総県債残高」の削減に向けた県の取り組み姿勢を質しましたが、理解を得られませんでした。残念ながら総県債残高は、下記のとおり増え続ける見込みです。申し訳ありません。

22年度末決算	2兆6331億円
23年度末見込	2兆7377億円
24年度末見込	2兆7960億円(当初予算ベース)
- ・「事業の徹底的な見直し」では、昨年度は、まず「総合計画」の読み込みと、「業務棚卸表」の分析を行いました。この中で「業務棚卸表」の改善を提言し、24年度から実施されることになりました。
- ・なお産業委員会の所管である「企業局」については、2月議会で、民間手法の積極的な導入による事業見直しや、固定費の削減などを提言しました。
- ・「ファシリティマネジメント(資産経営)」は、一般質問で提言し、24年度から取り組むことになりました。先進自治体や民間の取り組みを参考に引き続き提言を続けていきます。
- ・この他12月の一般質問では、新たな歳入確保策の検討や、県議会で初めて知った「個人県民税収入率全国ワースト1」の脱出に向けた徴収体制の強化や市町への支援を提言しました。

★議会改革

- ・ 議会改革については、各会派の代表者でつくる「議会改革検討委員会」で行程表をつかって検討を進めていますが、なかなか進んでいません。「議会基本条例」はまだ議論されていません。
- ・ 「政策立案機能の強化」としては、今月から3つの条例案検討委員会を設置することになりました。私は「“友好提携等 議決事件 条例案” 検討委員会」の委員を務めることになっています。
- ・ 「広聴広報活動」としては、「出前県議会」の開催を検討しましたが、結果的に行わないことになりました。本会議や委員会を議場以外の場所でやるのは難しいでしょうが、議会報告や県民のみなさんからの意見聴取を行うのは可能なのですが・・・。

笑顔あふれる元気な静岡県の進捗状況

★生き生きと暮らしやすいまちづくり

- ・ 「ユニバーサル社会」づくりでは、一般質問で「外国人のこどものキャリア形成支援」を取り上げました。教育システムから就労支援までトータルでの仕組みづくりが必要ですが、県の対応は決して十分ではありません。
このほか、障がい者支援なども研究しています。

★子どもは社会の宝物

- ・ 「教育」については、日常活動の中で現場の声伝えてきました。
とりわけ現在、小中学校の評議員や高校のPTA 副会長をやっていることから、いじめ・不登校をはじめ、昨今の教員のコンプライアンス上の問題については、教育委員会とも意見交換を重ねてきました。
- ・ 「子育て支援」は、昨年度は自動車産業の土日稼働にあわせた対応を進めました。
待機児童対策については、放課後児童会の運営委員を務めていることから、現場実態の把握に努めました。

- ・ なお「こども園」については、国の制度がまだ固まっていないことから、制度的なものには取り組めませんでした。

★産業政策

- ・ 「ものづくり産業の基盤強化」については、産業委員会に所属したこともあり、定例会ごとに調査研究を深め、積極的に現場の声を伝えました。
特に、地震津波対策を踏まえた中小企業の「企業立地支援」と、円高に対応した「海外展開支援」は喫緊の課題と捉え、ヒアリングや海外視察を行い提言につなげました。
- ・ 「雇用労働政策」は、「雇用創造アクションプラン」の策定にあわせ、産業委員会の中で意見反映に努めました。
このプランは、県内を4地域にわけ、地域に応じた雇用政策を進めていこうという点が特徴的ですが、この点は私も以前から主張していたので評価したいと思います。
このほか、障がい者の雇用促進や雇用のミスマッチ解消に関して提言してきました。
- ・ 「観光産業の育成」については、会派の“条例検討プロジェクト”の中で「観光振興条例」のチームに入り、調査研究を進めました。
残念ながら今年度議会に設置された3つの検討委員会のテーマには選定されませんが、引き続き実現に向け取り組みます。

◆みなさんの声をお聞かせください◆

以上が昨年の“後援会加入リーフレット”でみなさまにお約束してきた内容とその進捗状況です。最初に書いたとおり、目標や実績を数値で示せていませんが、今後、できるだけ指標設定できるようにしていきたいと思っています。

なお、ここに記した他にも、東日本大震災を受けて、地震・津波対策や原発への対応、新エネルギー導入促進などに取り組んでいます。

一方、「くらし・健康・建設土木・警察」などはまだ十分に勉強ができませんでした。また、行財政改革の一環として「静岡空港の経営分析」や「外郭団体のチェック」も計画していましたが、やりきれず課題を残しました。

今年度はさらに政策の幅を広げ、“有言実行”で取り組んでまいります。



【写真は志都呂町の“もくれん”。素敵でしょう】

「ネーミングライツ」は日本語でいえば「命名権」。

自治体の歳入確保の手段として近年導入が進んでいます。

施設の愛称として企業名や商品名をつけるのが一般的で、自治体での導入は、平成 15 年度に東京都が所有する「東京スタジアム」を「味の素スタジアム」としたのがスタートとされています。

静岡県内にも「アウトソーシングスタジアム(静岡市)」のほか、市道の導入事例「ららぽーと通り(磐田市)」などがありますが、静岡県有施設にはまだ導入されていません(浜松市も数年前検討していたはずですが、今はどうなったんだろう…)。

そんな中、「市の名前を売る(自治体名のネーミングライツ売却)」という自治体が現れました。

大阪府の泉佐野市。

関西国際空港に近い人口約 10 万人のこの市は、「りんくうタウン」という都市開発に巨額の投資をしたものの、計画どおり進まず、平成 21 年度から「財政健全化団体」になっています。

施設や道路にとどまらず、市の名前まで売ると言うのは、そこに住む人にとっては非常にづらい選択でしょうが、そこまですないといけないということですね。

果たしてどうなるのか、また、手を挙げる企業があるのかも注目されます。

夕張市の破綻(現在は「財政再生団体」)でクローズアップされた自治体の経営悪化ですが、税収が上がらない中、厳しい財政状況はまだまだ続きます。

さらに今後は、どこの自治体でも地震・津波対策で大きな投資が必要となります。不断の行財政改革を進めムダをなくすとともに、ネーミングライツなど歳入確保を進める必要があります。

【日々の活動はブログをご覧ください】

★創ろう！元気な浜松&静岡県

田口章

で検索

3月の活動報告

- 01(木) 本会議(一般質問)
- 02(金) 本会議(一般質問)
- 03(土) 入野地区社協 活動報告会
- 04(日) 三遠南信道路開通式
- 05(月) 本会議(一般質問)
- 07(水) 産業委員会
- 08(木) 産業委員会
- 09(金) 産業委員会
- 11(日) 佐鳴湖クリーン作戦
入野中学校卒業記念凧揚げ
- 12(月) 総務委員会傍聴
(副知事選任議案審議)
- 14(水) 県政報告会
- 16(金) 本会議(閉会)
- 17(土) 保育園卒園式
- 19(月) 中学校卒業式
ひとり1改革運動報告会
- 23(金) 会派総会
- 24(土) 保育園卒園式
- 25(日) 浜松まつり会所開き
入野地区自治連 期末総会

4月の活動予定

- 01(日) 保育園 入園・進級式
- 04(水) 会派総会
浙江省友好提携 30 周年式典
- 05(木) 浙江省名品展覧会
- 06(金) 小中学校 入学式
放課後児童会 入会式
- 07(土) 消防団西区支団 入退団式
- 09(月) 高校入学式
- 10(火)~11(水)
金属労協 政策制度討論集会
- 12(木) 税と社会保障一体改革説明会
- 14(土) 新東名高速道路 開通式
ユタカ技研労組 25 周年式典
- 15(日) スズキ労連 ヤングリーダー研修会
- 16(月) 県議会 条例検討委員会
会派政調会
- 18(水) 岡本まもる議員後援会総会
- 22(日) 浜松地区メーデー
- 23(月) 会派総会
- 26(木) 高校 PTA 理事会

【あとがき】今日から新年度。気分も新たにスタートという方も多いのではないのでしょうか。静岡県は副知事不在のスタートとなりましたが、「浙江省との友好提携 30 周年(4/4)」、「新東名高速の開通(4/14)」など重要施策が目白押しです。速やかに臨時議会を開催し、体制を整え、県民サービスの向上につなげていく必要があります。現実と現状をしっかりと踏まえ県民目線で取り組んでいきます。